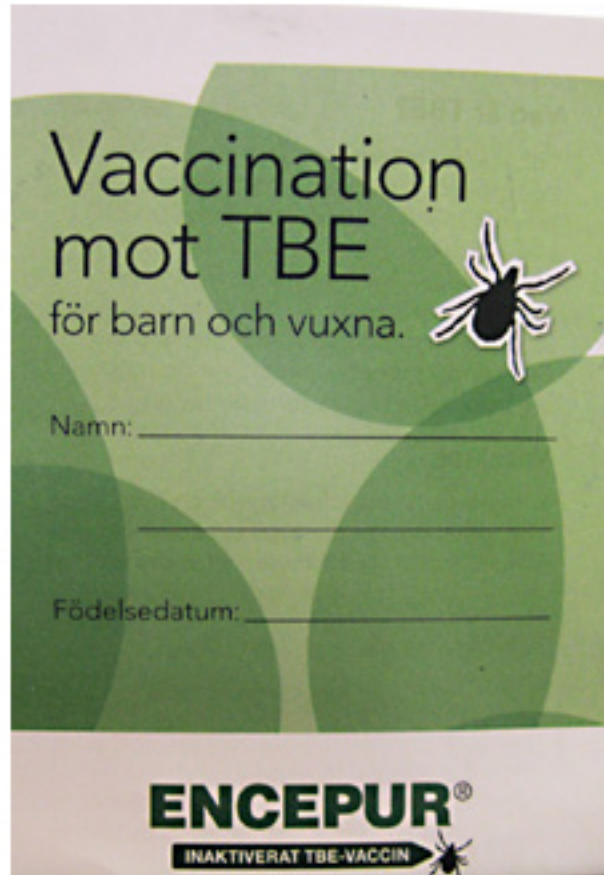


2011.07.10

ヨーロッパの恐るべき大型吸血ダニに注意！


 担当：
Rica

旅先で突然の高熱と体のだるさに教われ4日間倒れ込む。原因不明の高熱。いろいろな不安がよぎる。通常風邪を引いてもめったに熱を出さないのに、このところの仕事の忙しさからくる疲れからの熱かもしれない。そして、究極の体のだるさ。。。



ふと、頭によぎったのが「も、もしやFästing(フェスティング)ー吸血ダニに刺されたのでは!？」

何人かの友人が以前夏に知らないうちにフェスティングに刺され、風邪のような症状とけだるさを訴えていたのを思い出した。そういえば、彼らも刺されてから一週間後にそのような症状に教われたといていた様な。。。そういえば一週間前ちょうど旅行に出る前日、自宅の庭でパーティーをして素足で何時間も過ごしたし、可能性はある。今年は芝生で時間を過ごす機会が多くなりそうなので、フェスティングのダニ媒介性脳炎予防注射も受けることにしたが、まだ途中段階で残り2回の予防接種が完了していないという、微妙な状況。

「Fästing(フェスティング)ー吸血ダニ」とは大型の吸血性ダニのことで、哺乳類から発せられる酪酸の匂いに反応して草の上などから生物の上に飛び移り吸血行為を行なう。噛みつかれた本人はほとんど気がつかないという。フェスティングの多くは人々の皮膚の柔らかい部分、例えば足の付け根やお腹周りを狙い食いついてくる。一度食いつかれると、1週間から2週間ほど体からは離れず吸血行為を行なうとのこと。無理矢理フェスティングを引き抜こうとすると体液の逆流が起こったり、頭部が残ってしまう可能性がある。

その時にダニ媒介性脳炎TBE ウイルスのような細菌感染の恐れがあるため、気をつけて対応しなくてはならない。

もし子供が刺されてこのウイルスが体内に入ってしまうと、脳に感染し死に至るという恐ろしいウイルスなので、スウェーデン各地では子供向けに一回5kr(約70円)で予防接種が受けられる機関を何か所も設けている。しかし、大人はなんと一回380kr(約5320円)。

スウェーデン人家庭にはフェスティング用のピンセットを常備している。皮膚から引き抜く時に体をつぶすことなく、すんなり安全に抜き取れるという優れもの。私も友人に頼まれ何度か引き抜きを経験したことがあるが、吸血行為でふくれあがった体をつぶさない様に引き抜く時、緊張したのを覚えている。

とはいえ、今回は自分自身刺された感触もなく、肉眼で見るとそのような物体が体にくっついているのも見当たらないので、急遽、病院に行き診察を受け血液検査を受けることに。思いのほか肝臓の値が高い。C型、B型肝炎の疑いは2度の検査で問題なし。高熱を出した前日はさすがに、ワインを半ボトル飲んでた。その後、高熱で倒れ込み究極の脱力感と食欲の減退で病院での検査。先生も不思議な現象に首を傾げる。「そのときのワインが残っていたのかなあ？」とのお言葉。自分が知る限り、フェスティングからの感染症状でインフルエンザみたいな症状は見られるが咽頭痛に関しては聞いたことがない。とにかくフェスティングではなさそうだ。ただの疲れから来た風邪だったのかもしれない、という結論に達して今日に至る。

この夏スウェーデン、あるいはヨーロッパ旅行をお考えの方はなるだけ芝生の上に時下座ったり裸足で歩いたり、寝転んだりしないよう心がけてほしい。彼らにとってフェスティングは身近な存在なので対処法を知っている。なので、地元民が芝生で寝転んでいるからといって安易に真似しないほうがいいかも。もし、体に黒い物体を見つけた場合、自分で対処せず病院に直行してほしい。ストックホルム市内なら地下鉄の駅Hötorget(ヒュートリエ)にあるCITY HALSOCENTRAL(シティ、ハルソセントラル)住所Slöjdgatan(スロイドガータン)9に行くことをお勧めする。

参考写真 <http://sv.wikipedia.org/wiki/Fästingar>

シティ、ハルソセントラルのHP <http://www.cityhalsocentral.se/>



WRITER PROFILE

Rica

ファッションデザイナー。ジュニアシダのデザイナーを経て代官山でオートクチュールのドレスサロン経営。のちにマルタ共和国→シシリア島...と北へ北へと移り住み、現在スウェーデン在住。2009年夏より、オリジナルブランド「Rosenkrona」を立ち上げ、北欧と日本で活動中 (www.rosenkrona.com)。各国の手工芸、アンティーク、アルゼンチンタンゴ、ワイン&食、秘境の町&村めぐりなど興味は広範囲。